

歴史・文化サイトカード

通しNo.		1-A-17	更新日	2025/1/31
サイト名		島根半島西部の北前船風待ち港～鷺浦港 きたまえぶね さぎうら		
基本情報	区分	☐ 有形 ☐ 無形 ☒ その他		
	所在地	出雲市大社町鷺浦		
	指定別			
	種別			
	指定／登録年月日			
	管理団体／モニタリング	大山隠岐国立公園		
	周辺施設／アクセス	☒ トイレ ☐ 売店 ☐ 飲食店 ☒ 駐車場(2 台)		
	留意点			
サイトの解説	歴史・文化	『出雲国風土記』の出雲郡鷺浜に比定される。鷺浜の前後に記載される島、大前(おおさき)島は当港北端の鶴島、脳(なづき)島は港正面に見える柏島、黒(くろ)島は、鷺浦と日御碕の境にある足毛馬(あしげうま)島にそれぞれ比定されている。なお、同じ出雲郡宇賀郷西方にあったと記される黄泉の穴を鶴島東方の海岸べりにある洞窟とする説がある。 中世には杵築大社領であったが、江戸時代には藩領となっており、北前船の風待ち港として栄えた。街並には当時を忍ばせる屋敷や蔵が残り、多くが船主だった家で、大きな間口を構えており、江戸末期から明治にかけて繁栄していた様子が伺える。		
	地形・地質、生物・生態等	鷺浦は、湾口の東に位置する三角錐状の鶴島と東の海岸が急崖をなして南北に切り込まれた細長い入り江の奥にある。西側はもちぐら鼻や梅湾があって入り組んだ地形をなしているが、季節風の直接の影響を受けにくい場所である。およそ1,600万年前の流紋岩の火山活動でできた溶岩と水冷破碎して角礫化した溶岩および同質の火山砕屑岩でできている。湾の中央部にも同質の火砕岩でできた柏島があって、風浪の港への直接の侵入を防いでいる。北前船が往来した江戸期から明治にかけて繁栄したこの港は、島根半島での場所とこのような地形によるものである。		
写真・図等				
	港中央に柏島、天然の良港 手前は特産ヒジキ		近年は釣り客の渡船業が盛ん	
参考文献				